

<議事概要>

1. 開会

司会の都市計画課・安福課長に続き、都市整備部・原田次長が開会のあいさつを行った。
(原田次長のあいさつ内容は、以下に示す)

2. 議事

第3回策定検討委員会の開催結果等について、(1)住宅マスタープラン、(2)都市計画マスタープランの順に、議事の概要を以下に示す。

発言者	議事概要
原田次長	<p>開会あいさつ</p> <p>皆さん、こんにちは。本日は第3回目の策定委員会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>今年度の策定委員会は、今回が最後の委員会となっています。住宅マスタープランにつきましては、今年度策定ということで、本日までご審議いただきまして策定することとなっておりますので、どうぞよろしくお願いたします。また、都市計画マスタープランにつきましては、第1回策定委員会で課題の抽出までを説明させていただきましたが、その後、作業を進め、将来都市像や、まちづくりの基本目標、将来都市構造まで作成しておりますので、その点、ご説明をさせていただきます。</p> <p>委員の皆さまにおかれましては、様々な視点からの幅広い忌憚ないご意見を頂戴したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>(資料確認)</p>
田原会長	<p>皆さま、年度末の大変お忙しい時にも関わらず、本策定委員会にご参加いただきありがとうございます。</p> <p>今、ご案内ありましたように、今年度は最後ということで、特に住宅マスタープランにつきましては、これで策定作業を全て完了というスケジュールで、今のところ来ております。本日は、その締めになる日ですので、どうぞよろしくお願申し上げます。</p> <p>本日の会議は、16時までには終わりたいと思います。ちょっと駆け足になる部分もありますが、住宅マスタープランについては、既にかなり検討の機会があり原案として出来ておりますので、ご協力のほど、よろしくお願申し上げます。</p>
田原会長	<p>(1) 加西市住宅マスタープランの策定についての質疑応答</p> <p>・それでは、次第に沿って進めさせていただく。議事は2つあり、まず、1つ目、加西市住宅マスタープランの策定について、事務局から説明をお願いします。</p>

	(資料説明)
田原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局の説明が終わりましたので、何かお気付きの点があれば、ご質問ご意見をお願いしたい。非常に要領良く簡潔に説明いただいたので、逆に、既に指摘されているような箇所を確認いただき、質疑応答の中で説明がさらに必要な部分は、またしていただくので、是非よろしくお願ひしたい。 ・先ほど、事務局の説明にあったように、パブリックコメントを実施した。意見は無かった。
●●委員	<ul style="list-style-type: none"> ・原案の方に特に意見は無いが、資料 2-2「将来人口」表面、社人研の人口推計で 2060 年の加西市全体の数値が出ているが、各地域ごとにどういうふうにしていくか。小学校単位で考えていると思うので、小学校区単位の 40 年後、2060 年。これはデータが当然誤差もあり、誤差も出ると思うが出すことは可能か。
田原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 2-2、都市計画マスタープランの説明資料。
●●委員	<ul style="list-style-type: none"> ・改めて都市計画マスタープランの説明でもあるかと思うが。
田原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・人口推計の話は、住宅マスタープランでも当然下敷きになっていると思うので、そこを確認して説明いただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・2060 年について、こちらは社人研という所が出している物に基づきながら出している。2060 年は出せない状況で、現在、2045 年か 2050 年までしか出せない。
田原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅マスタープランの話に戻るが、色んな記述の根拠になっている部分、推計値をベースにしている部分は、どうなっているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅マスタープランの方では、推計値をベースにして住宅の供給戸数などを出している部分はない。ご質問の部分は、後ほどまた、都市計画マスタープランの資料説明の時に、補足説明をさせていただいてよろしいか。
田原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・そうですね、それでよろしいでしょうか。 ・改めて、住宅マスタープランとして確認しておきたい。一応、今回は、資料編や本編を見ていただければ分かるが、全市の世帯数、世帯人員数の推移の所で、基本、令和 2 年までのデータがベースになって書かれているということ。 ・中を読んでみないと分からない部分はあるが、こういう将来推計をベースにしている部分の有無を確認していただいたが、それは無いということで、また後で、資料 2-2「将来人口」の説明をしてもらってからや

<p>●●委員</p>	<p>りたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住宅マスタープランの話になるが、他に何かお気付きの点、気になる点はないか。 ・資料 1-2「加西市住宅マスタープラン資料編」、第3回都市計画審議会での意見の2点目、「加西市民、それから新たに市民になろうとする人に向けてどういうメッセージを届けるかが重要である」というご指摘に基づいて、「概要版等を作成する際は配慮していただきたい」というご意見。この概要の原案で、この投げかけに対する答え、市民であったり新たに市民になろうとする人に向けて、メッセージは届くのかということを知りたい。 ・もっと言うと、計画のたぶん目的の所かと思うが、このご意見の趣旨は、住宅マスタープランの中で、加西市が市民や市民になろうとしている人たちに対して、どういう住宅ないしまちを提供していくか。その将来像、書いてある目的で言えば「あるべき将来像」と概要版ではなっているが、ここを問うている。審議会の方の、あるべきメッセージというのは。 ・コンパクトにまとめるために苦労するのは理解するも、このご意見に対する回答として、資料 1-1「加西市住宅マスタープラン（原案）」P1、「あるべき将来像」とつまむのではなく、「多様な住まい方、ライフスタイル志向に対応し、若年層をはじめとする多様な世帯の定住促進を進める上に必要な」等々。この進める所までも、どうコンパクトにするかというところ、この「あるべき将来像」の、「あるべき」とは何ぞやという所を触れないと、この審議会でのご意見へのエクスキューズ、答えにはちょっと物足りないのではないかという感じが、この概要の計画の目的を見た限りでは感じるが、その辺りは如何か。
<p>田原会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・回答と言うよりコメントになると思うが、事務局から願います。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・概要版を作成させていただき、私どもとして、メッセージとして、概要版なので原案をコンパクトに見せる必要があるもので、基本的にはその方向で行っている。 ・これはメッセージという意味では不足かもしれない、不足だとは思いますが、例えば、主な成果指標は全て載せているわけではない。私どもがメインでやらせてもらっている規制緩和の話とかに焦点を絞った成果指標だけを今、載せている。それをメッセージの代わりという意味で、ちょっと反映させていただいたつもりである。 ・先ほどのご指摘で、「あるべき将来像」という言葉。これ、実は今回、修正で入れた。都市計画審議会でそういう言葉が出たので使用させていただいた。そこのフォローが足りなかったかもしれない。この辺りを、せっかく今日、貴重なご意見をいただきまして、今、お話をうかがったことを来週の都市計画審議会でも、少し検討させていただく。都市計画審議会、この場の委員さんにも都市計画審議会の委員さんが居られ

<p>●●委員</p>	<p>るので、結果どうなるかは別で一度検討させていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●●として、加西市の「あるべき将来像」を住宅マスタープランで位置付ける、加西市のまちとは何ぞやというものが、この目的の所に全く無い。 この、「住まい・住生活の快適化と居住できる地域の拡大を総合的に推進する」というのは、住宅マスタープランそのものの目的。それはしっかり入っている。だけど、住宅マスタープランでやるのは、ここにある「あるべき将来像」を果たすために、住宅マスタープランの中でこうしますというのが目的。だから、「あるべき将来像」が何なのか、市が目指す全体としてのビジョン。それが、これを見てもどういうまちにする、どういうまちにした上で、その時に「住まい・住生活の快適化等を総合的に推進していく」のだというのが、このマスタープランでの位置付けだと。 全体の、ここぞという所が無い。たぶん、この審議会に出てのご意見に対する回答としては少なくとも弱いのではないか。こんなまちに住みたい、こんなまちにしていくというビジョンが、一言で良いからあって、そういうまちに住んでみたいなどと思ってもらえるようにしてくださいねというのが、たぶんこの趣旨。 そこがちょっと、ぎゅっと圧縮するので、センテンスで切ってこうなっているのは重々分かってはいるが、こういうご意見が出ている、エクスキューズに対する答えとしては弱いのではという意見。最終的にはお任せする。
<p>田原会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 確かに、この概要版に書いてある「あるべき将来像」の実現、これはキーワードであり、文章としての、特にこの概要版の役割、是非これはよろしく願います。
<p>田原会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今のご意見に少し関係するが、資料 1-1「加西市住宅マスタープラン(原案)」P28、「6. 計画の推進方策」で、特に「6-1. 重点施策」がある。この「重点施策」は結構重要な話で、概要版にこの辺りをどう盛り込むかも重要ではないかと、個人的には感じている。概要版をこれからさらに良い物にする検討をしていただくということで、本編よりも概要版の話になるが、この辺をどんなふうにもこの話を入れるかを検討いただきたい。 今ここでコメントをいただくというより、検討事項としてよろしく願いたい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> 正直な話、住宅マスタープランは旧来、住生活や居住地の拡大、他の市では、たぶん住生活だけに絞っていて、加西市は、かなり市街化調整区域が多いこともあり居住地の拡大は、かなり強調して書いている。そういう意味では、かなり独自性がある。 「あるべき将来像」、私どもの本音としては、全体の話なので、これは都

<p>田原会長</p>	<p>市計画マスタープランで書きたいというのものもある。住宅だけに絞っている話なので、出来れば都市計画マスタープランで提示しているというふうに読んでいただければ、一連の話になって来るが、そうしていただいたら私どもは非常にありがたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時期的なこともある。概要版をどういう形で示すべきかという、都市計画マスタープランの策定後で良いかどうかは、これは市の内部で検討いただきたい。 ・実は、この都市計画審議会の意見は、私の意見ではないかと思うが、要は、メッセージ性がやはり概要版ではとても重要だと正直思う。本編だけでは無いという話。分かりにくい言葉で申し上げたので、繰り返しになるが、国・県の方針は当然、国・県としての立場があるため、非常に網羅的にならざるを得ない。加西市は全体としての方針はそれと整合させるが、加西市にとって特に重要と言うか、加西市がそれを頑張ることで全国の住生活に資するという部分もある。別にそれを目的にやるわけではないが、そういう話が概要版にも必要ではないか。 ・特に広い市街化調整区域があり、そこに新規参入したい人や、あるいは新しくそういう場所を生活圏として活動したい人に、加西市は門戸を開いている。加西市にしか出来ないような暮らしがある。そういう話を届けたい。行政文書なので、あまりいい加減なことばかり言えないが、やはりそういうメッセージ性みたいな物があればと思う。 ・先ほどの●●委員のご指摘、「あるべき将来像」が無いと確かに始まらないのは、まさにその通り。この概要版をどういう形でいつ作るかも含めて、ご検討をいただきたいが、やはりここは重要と思う。 ・加西市の「あるべき将来像」であり、住宅マスタープランのというわけでは無いが、そこが明らかになっていないと、ここは完結しないというのが正直ある。なかなか難しい課題だが、是非ご検討いただきたい。
<p>田原会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他に無いようなら、議事（１）加西市住宅マスタープランの策定については、この辺りにさせていただく。住宅マスタープランの審議は、今日で最後となるので、ご意見がなければ、これで策定作業は完了という形になる。 ・一応、確認はさせていただきたいと思う、ご異議は無いか。無いようなので、こちらの議事については、これで終わりとする。
<p>田原会長</p>	<p>（２）加西市都市計画マスタープランの策定についての質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・続いて、議事２の加西市都市計画マスタープランについて、事務局から説明をお願いしたい。 <p>（資料説明）</p>
<p>田原会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・只今の所について、ご質問ご意見があれば、お願いしたい。まずは、先

	<p>ほどの質問について、もう一度。</p>
●●委員	<ul style="list-style-type: none"> 資料 2-2「将来人口」、推計人口の 2060 年に書いている数値が市全体だが、この裏面に書いている各小学校区の数値は令和 27 年、2045 年。これを 2060 年までは書けないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> お配りした参考 1「推計方法」、これはコーホート要因法の設定の仕方 で、結論を言うと、社人研の総人口は 2060 年まで確かに出ているが、 今回、小さく積み上げをしようとする中で社人研が設定している使える データ、生残率や純移動率、子ども女性比などが、2050 年ぐらいま でしか公表されていない。 2060 年まで無いので、この生残率等の公表されているデータで地域ご との独自推計をしようとしたら、この 2045 年が限界であった。だから、 ずれが出ていることをご理解いただきたい。
●●委員	<ul style="list-style-type: none"> 裏面、各校区の下の人口比を書いている所、令和 27 年では無くて令和 14 年にしているが、27 年にしていない何か理由はあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画マスタープランの目標年次が 10 年後、令和 14 年になるので、 今回そのように表記した。
●●委員	<ul style="list-style-type: none"> 令和 27 年の人口で、年少人口、生産年齢人口、老年人口とあるが、実 際なかなか実感が無い。地域で住んでいると小学生が何人、中学生が何 人という話が常に出て来る。市民の感覚では、実感があるのは基本的に 小学生が何人、中学生が何人ということで、話にも出て来る。令和 27 年に小学生が何人、中学生が何人という数字が出ると実感として分か りやすく、市民としても情報が、普段生活していると、人口が減るとい うのは全体の数字の話で、市民の自分の話にはなかなかならない。加西 市全体では減るけども、自分の周囲でそこまで減るとは思っていない 人がほとんど。 例えば、自分の町内は人口が 110 人ぐらいしか居ないが、実際、町で付 き合いが出来る 20 歳から 39 歳の男性は 3 人か 4 人しか居ない。0 歳か ら 20 歳が将来、町に帰ってきて住む確率は、さらに低い。おそらく 40 年後には、ほぼ居ないのでは。実感が、なかなか数字で見ても無く、き つちり出すのは難しいと思うが、何かそういうのがあれば良いと思 う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 今、出来ることとしては、5 歳階級ごとで人数を出すことは可能。それ を小学生、中学生、小学生ならば 12 歳まで、中学生ならば 15 歳までな ので、その括りでは出せないが、5 歳階級であれば出せる。それでは難 しいか。
●●委員	<ul style="list-style-type: none"> コーホートでは 5 歳単位になっていますから、例えば、おおよそ小学

	<p>生、おおよそ中学生で見せていただけたら、ありがたい。</p>
<p>田原委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実感とおっしゃるが、データのリアリティというか、一番重要なのは、こういうことを自分ごとにするための方法論ということですかね。15歳までだったら小中学生と表現が出来る。工夫をしてくださいということで、事務局も今のご発言の趣旨を活かして、工夫、分析をお願いしたい。
<p>●●委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 2-1「新しいまちが目指す都市のイメージ」。確実に人口自体が減っていく中で、集落地域などで規制緩和を進めていくことに関しては賛成ですし、全体の方針としてすごく良いと思うが、実際に人口が減っていく中で、集落地域自体をどこかの段階で優劣を付けていくことが必要になって来るのかと思う。そういう指標というか、ある程度、数値的な物で把握しながら考えていかれているのか。現段階では全体を1つの同じ物、平等な物として規制緩和して行く方針で考えられているのか。その辺りを教えていただきたい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・私どもの立場として、優劣を付けて選別して行くことはしたくない。したくないが、今、特別指定区域の見直しをやっている中で、見直しの仕方を各町にアンケートを取らせていただき、例えば、新規居住者誘導区域、誰でも住める区域を導入しませんかというアンケートを去年に取った。そのアンケート結果や、各区の区長さんとお話して、それらをベースに、今年2月に案を作って全町に配布した。 ・それらは同じ物でなく、新規居住者誘導区域のある所、無い所がある。また、都市計画審議会で本当はお話すべきことだが、空き家の活用が出来る区域を提案している町もあれば、提案していない町もある。それは町の方針、考え方に合わせてやっている。 ・優劣を付けているつもりはないが、その町のやり方、どう生きていくかというのは、たぶん、ふるさと創造会議を続けていくと出て来ると思う。地域の考えの違いというのが。だから、とある町では、私どもは農業を中心にしたいから農地転用は一切させたくないという、たとえ町の人が家を建てるとしても、という回答をされたような町も実はある。それはそれで、その考えを守ってもらえば良いと思う。それは優劣という意味ではなく、町の生き方が出て来るので、そういう物を分析の要因の1つとして入れる必要はあるかもしれない。ふるさと創造会議でも、地域のまちづくり計画を作っている所、作っていない所がある。まちづくり計画を作っている所のそれを見たら、空き家の活用などを書いている所は、たぶん受け入れて行こうという方向であるだろうし、そういう物を考えて行かねばならないが、私たちから優劣を付けるつもりは無いが、方向がそのうち見えて来るのではないか。 ・今回の都市計画マスタープラン、完璧な分析は出来ないかもしれないが、たぶん10年間やっていく中で、次の都市計画マスタープランの時に明確に出て来しまう可能性があると思う。今回の特別指定区域の見

<p>●●委員</p>	<p>直しは、良いサンプルになっている。それはまだ結果は出ていないが、次の機会に紹介させていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ごとの方向性、意向みたいな物がすごく大事なこともあるが、例えば、加西市全体で客観的に見た時に、この地域はどうであるとか、現状分析してどう、動いている農地や工場がどれぐらいあるか。 ・ポテンシャルの有無の話を、なかなか加西市の中で話をするのは結構難しいとは思いますが、やはりコンサルタントが入られている時に、そういうふうに客観的な数値として何かを把握しておいて、こういう方向性があるのではということ、出さないにしても話をしておくことは大事と思う。 ・現状で、まず地域の考えは重要なもの、1つとして非常に分かる。地域が、お話をされているのが区長さんなのか分からないが、そのような方がたまたまやる気があるのかどうか、そういうことに大きく左右されてしまうこともあるのか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ポテンシャルの話、今回、都市計画マスタープランは、コンパクトシティを国から言われていることもあり、その定義を当然していく中で、細かい分析をしてもらったのが、商業施設、医療施設、公共交通などの配置からで、拠点を作っていくことを考えている。 ・例えば、今おっしゃった工場が多い少ない。これは工業統計という調査があり、公表はしにくいですが内部では議論が出来る。町ごとの分析等とかは。そのようなデータは、また作って説明等が出来るかもしれない。拠点を作るだけの話ではなく、当然、産業の振興という視点もある。地区、地域で産業が発展している、していない。産業団地の有無にかかわらずあるので、それはやって行きたい。 ・地域の考えが重要、それは当然あると思う。先ほどおっしゃった、区長の考え方や地域のやる気の有無というお話は、確かにあるとは思う。正直これは私見だが、やはり校区でかなり傾向が違う。国のガイドラインで、都市計画マスタープランでは地域別構想を謳わねばならぬとなっているので、地域別構想で、私見だけではなく、アンケート分析も取れるだろうし、校区別、年齢別、男女別のデータを前回提示したので、それらも参考に出来る。 ・地域別構想の地域をどうするかという話も議論をしていく。まずは、案を提案する。見直しは校区ごとになっているが、秋ぐらいに中学校がどうなるかという問題もある。それを目途に、地域をどうするかという話を、この場でしないといけない。そういう情報を出しながら、検討させていただきたい。
<p>田原会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘は非常に重要な論点を含んでいる。結局、この都市構造図が非常に良い例だが、2つの拠点の話があり、一方、広大な市街化調整区域の地域づくりに、地域別構想の根拠として、データとしてそういう物のベースになるような物が、そもそも無いのか。あれば、どういう形で見せ

	<p>るかという、非常に重要な話。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もちろん、優劣という物に誤解されると非常に困るが、ポテンシャルを示す役割を、とにかく全体目線として載せられないかというご指摘は、非常に大きな話だと思う。これは地域別構想をどう書くかということと合わせて、少し検討していただく必要がある。よろしく願いしたい。
<p>●●委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどのお話に通じる所で、担当課が答えたように、基本、市は優劣無くやっていく。ただし、現状の色々な法規制の中で、地域の発展に弊害がある中で、特別指定区域の活用をしている状況だと思う。そうであるながらも、現状、区長の独断なのか、町のカラーなのかは別として、今回の調査・照会においては、そういう返事であったということだと思う。 ・今回作る都市計画マスタープランは、未来永劫と続く物ではなく、中間見直しがある。あるいは、10年後には次期都市計画マスタープランになる。タイミングが少なくとも5年後、5年おきにあるので、そういった段階で再度、地元の意向を確認していく作業が加われば、懸念もある程度は賄えると思う。その意見を残しておく方が良いかと思ひ発言させてもらった。
<p>田原会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一連の議論に加え、そのようなご意見をいただいた。よろしく願いしたい。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほど言った、人が増えなくても良いみたいな所ばかりではなく、そういった所もあったということです。それだけは確認しておきたい。 ・地元意向を聞く機会も、5年に1度、中間年には見直しをしたいと思いますので、そこでアンケートを取るなり可能なことを検討させていただく。
<p>田原会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりのあり方、この加西市だけでなく全ての自治体にとって、非常に根幹になる話。より慎重にやらねばならないが、それに基づいて、特別指定区域制度などを運用しているわけで、実際には現実がある。この都市計画マスタープランと、そういう現実をどう整合させていくか、どう関係付けていくかという話は、結構重要な話。 ・特に地域別構想の策定に当たって、非常に大きな課題になるだろうと思う。先ほど校区の話も出たが、そこは今から課題として整理していく。そういうことが委員の方々からのご指摘だと思う。これからの進行として考えていただきたい。
<p>●●委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 2-1「まちづくりの方向性・理念・基本目標」の右下、「多様な主体の交流によるまちづくり」。ここで、「コンパクトなまちづくりを推進する」という言葉があり、先ほど事務局からその定義、国からこういうことを入れるとの話があったが、おっしゃってたような、メッセージと

	<p>いう意味では、おそらく加西市の場合は、コンパクトの定義は色々あると思うが、市全域で、それぞれ地域で住みやすいまちづくりをという分には、特別指定区域があったり、そういう方向性はかなり強いはず。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のこういうまちづくりの方向性として、おそらくその方向で、今、ずっと動いていると思うが、その辺、例えば、コンパクトなまちづくりと言っても、定義が分からないまま、ずっと動いている感じがしている。加西市としては、方向性はこういうふうな感じでいきたいと、ふわっとした感じでしか分からず、市民に伝わるような感じの方向性がなかなか出て来ない状況。何とかその辺を整理していただきたい。 ・コンパクトなまちづくり、例えば、小学校に通うにも30分ぐらいかかるから、バスが出るならばその地域に住むが、バスが無いから北条に住むという子どもが2人居た。要は、地域に住もうと思っても、小学校まで歩くのが面倒。遠い人は結構居るが、それならば北条に住む。だから、地域から出て行くというのもある。小学校の周りにままとるとそれなりにコンパクトだけど、地域は残っていく。ケースバイケースで大きく違うが、全体の方向性が何か分かるようなメッセージがあれば良い。
田原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・「多様な主体の交流によるまちづくり」の中に、コンパクトなまちづくりという話がある。まとめ方、全体のトーンと、ここに書いていることを、どういうふうに合わせていくか。特に、コンパクトなまちづくり自体が、必ずしもじっくり来ない、そういうご意見も含んでいたと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・普通、コンパクトなまちづくりと言え、市街化区域の外側を完全に人が漏れないようにする。もしくは、今は立地適正化計画を作っており、市街化区域の設定がそもそも広すぎたので、さらに第二線引きという都市機能誘導区域、居住誘導区域を小さく設定をして、そこに人を集めるというのが、一番標準的なコンパクトなまちづくり。 ・もちろん加西市は、そういう物を目指していない。何故なら人口の2/3が市街化区域の外に居り、そもそもの市街化区域の設定が小さすぎる。市街化区域云々で、色んなことがコンパクトであるなどと話をするような市ではないという前提に立っている。 ・特別指定区域の設定も、野放図に好きな所に好きなだけ設定しているわけではなく、必要最低限度の土地利用と、必要な場所に限って特別指定区域を設定している。これでもコンパクトで必要最低限の、市街化調整区域の中でもコンパクトなまちづくりをしていると思う。 ・今回、集落の拠点の範囲を示してみようと、定量的な検討、検証しようとしたのは、集落の拠点や中心となるような所を見つけて、その中で可能な限りコンパクトに、例えば、この辺りぐらいに立地して来てもらえたら良いとか、どこでも良いわけではなく、集落内でもある程度、中心的な所にまとまって住んでいくという意味で、全市全体から見たら、確かに市街化調整区域にも土地利用をしているので、コンパクトではないと言われかねないが、そもそも市街化区域の設定が少なすぎるので、今がやっと他市並みのコンパクトなまちになっているだろうという理解

<p>田原会長</p>	<p>でいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それ以上にどんどん広げるという意味ではなく、必要な部分については、しっかり集落も形作っていくということは言っておきたい。それは、国の方がもし仮に、特別指定区域をこれだけ設定しているのを見た時に、そもそもコンパクトではないと言われかねないので、我々加西市のコンパクトシティは、こういうものですということで、今回こういう言い方をしている。定義は1回書かせていただき、諮らせていただきたいと思う。 ・コンパクトをどう考えるかという話と、必ずしも先ほどの問題提起だけではなく、今のご発言を聞いて私が思ったことは、この「多様な主体の交流によるまちづくり」の中に、今の記述ではちょっと分かりにくいことがありそう。論点は実は2つある。 ・特に、コンパクトに関しては、常に問題になっている。確かに投資効率を上げるためには、コンパクトにするのが良いのは分かっているが、必ずしもそれだけが都市計画、まちづくりの目的ではない。加西市の現状を考えた時には、各集落をどうやって維持、継承して行けば良いだろうかという話が非常に大きいので、必ずしも、そのコンパクトをどんなふうに整合させるか、これはちょっと難しいと思う。本当にどういうふうにコンパクトの中で扱うか、少し、もう1回議論をして、コンパクトを使うのであれば、コンパクトがじっくり落ちるような文脈を見出す必要がある。 ・コンパクトは投資効率の話で、1人当たりの行政コストの低減である。「多様な主体の交流によるまちづくり」の他に、持っていく所はないのか。如何でしょう。当然、施策の効率性、投資効率は非常に重要な話も、ここで立てている5つの柱の中で、どこに持っていくのが一番良いか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、5つ書いてあるうちの、「便利で暮らしやすいまちづくり」の所にも、「加西市版コンパクトプラスネットワーク」という言葉が出て来る。だぶっている可能性もあるので、多様な主体の交流によるまちづくりの方は、別の書き方にする。便利で暮らしやすい、1人1人のコスト低減は大事な話なので、それを国の方で提言しつつという形にするのも一案と思う。
<p>田原会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・確かに、「便利で暮らしやすいまちづくり」、そこで投資効率を最大限に考えるという文脈で行くと、ここにあるのは割と妥当性がある。そこは検討をお願いしたい。
<p>●●委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先ほどの議論も踏まえ、非常に本質を突いた意見をいただいていると思う。考え方の問題として、5つめの、多様な主体の交流によるまちづくりだが、基本的には加西市として、地域の主体性という物を尊重したまちづくりを続けて行く。そこは欠かせない所だと思う。 ・特別指定区域、ゾーニングの件で対応しているのは107町になる。主に

区長が相手となり、当然、町の住民の皆さんが、どう主体的に我が町のことを考えて行かれるか、どう動機付けをして行けるかということ。この動機付けで、ご指摘いただいた見える化、それぞれの町がどういうポテンシャルがあるのか、どういう課題を抱えているのか、こういう町にして行けば、もっと暮らしやすい充実した町になることを、しっかりと町住民とやる中で見える化して行けるかどうかのご指摘をいただいた。そこはしっかりやっていただきたい。

- そのために作成いただいたメッシュ図、これだけ細かいと、町単位でも示せると思うので、見える化の1つとして、非常にしっかりやっていただいた成果として、今後活用していくべきではないか。
- 一方、加西市として、ふるさと創造会議を小学校、北条には2つの小学校があるが、小学校区単位で、ふるさと創造会議という組織、これは位置付けの理解がなかなか進んでいない部分もあるが、問題意識の1つが、市内142町が10年後、20年後、30年後に維持出来るかという話がある。恐らく、現実にはなかなか難しいとなる時に、自治会機能として維持出来るかが問われる状況が訪れる。その中に、前回の議論でご指摘された、担い手としての自治会の活動。しがらみの中での色々な役務が多すぎる、それが担い手が減る中で、より重労働になる。こういった所を課題として認識した上で、果たして町単位、自治会単位だけでコミュニティの維持が機能するかと言うと、難しいだろうと。その中で社会課題、地域課題に対する解決などを主に対応していく、もう少し広い範囲での住民主体の組織が必要不可欠になって来るという問題認識の下に、ふるさと創造会議を地域の皆さん方にご苦勞をいただきながら、担っていただいているという構図。
- 特別指定区域のことは町単位も、ふるさと創造会議ぐらいの単位、例えば、賀茂校区であれば、賀茂のふるさと創造会議で多様な世代の方々が入っていただき、こういったデータも見ながら自分たちの町、自分たちの地域の良い所、悪い所、課題に対応するために、こういうことをしていきましょうと議論等をしながら、地域独自の取組をどんどんしていただけるような形に、何とかして持って行きたいと考えている。流れとは異なるが、その中で、地域主体型交通という取組が比較的地域の課題に対応する動きとして広がりを見せて来ている状況かと思う。
- 資料2-1「まちづくりの方向性・理念・基本目標」、「新しいまちが目指す都市のイメージ」の所、もう1つ、我々が意識しているのは、旧3町。コミュニティの単位をもう少し広い広がりとしては、旧北条町、旧加西町、旧泉町という旧3町の中で、どういうそれぞれの発展を進めるか。その中に、一部はコンパクト化も含まれると思う。
- 「主核」、「副核」というふうに書いていただいております、位置付けはともかく言葉の意味合いとして分かるが、ちょっと気になるのが、これで行くとそういう問題認識を持っているので、旧泉町の方が「他の集落地」に位置付けられてしまう。そこはちょっと違うと思う。
- 産業団地のことや殿原町が今、動きとしてはある。まちづくり協議会を設立して、殿原町自体の住環境をどう充実させるためにしようとされ

	<p>ている。こういう所を一定ちょっと、位置付けで記載を考えていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北条は良いが、中野が引っかかっている。もちろん中野町のまちづくり協議会を中心とした動きもあるが、ここで書いていただいているのは、たぶん中野町のまちづくり協議会の動きと、鶉野飛行場周辺のまちづくりの話、全体になっている。鶉野飛行場は当然ながら中野ではない。ちょっと表現を検討いただいた方が良い。 ・もちろん、旧加西町の中心地は、市街化区域が一部ある中野町であることは間違いなく、意図は良く分かるが、担当課も含めてもう少し検討をしてもらえたらありがたい。
田原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・多岐にわたるご指摘をいただいた。実際どうするかという検討は、次回以降にしたい。今の点に関して、事務局からコメントだけいただきたい。特に旧3町や中野の扱いの部分は如何か。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・旧3町の扱い、当然、地域別構想として旧3町を入れることは頭にある。中学校区で今はやっているが、中学校は今このような状態なので、自分たちの頭の中では旧3町でやるべきかどうかはちょっとある。 ・「都市核」と「副都市核」は、確かに旧泉町は入れているが、本来、国の考え方がおかしい話で、商業拠点で無理やり加西 I.C. 周辺地区、正確に言うと殿原や中富地区を入れている。「副核」とは書いていないが、そういったメッセージ性を入れている。これは今後、課内で考えさせていただきたい。 ・中野については、これは正直まだ叩き台と解釈していただきたいが、他の所を見れば、中野・鶉野地区という書き方をしているので、それが良いのかどうか、これも考えるべき問題と思う。中野と書ききるのは確かにおかしいとは思っている。
田原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・旧3町の話は、実際問題として都市構造図の中には、歴史性や市民意識との整合が必要であるというご指摘と思う。 ・中野の話も、恐らく事務局の考え方として、中野や鶉野は将来の、あるいは現在の市街地の成長という面で見ると、1つの拠点だという意識があると思う。それを、この構造図でどんなふうに扱ったら良いかということに関して、市民の感覚との整合性も含めて、ご検討いただく必要がある。 ・しかし、成長拠点という物を扱うにはどうしたら良いかという、都市計画的には非常に重要な話も含んでいる。 ・中学校区の話が出て来たが、●●委員から何かコメントはあるか。
●●委員	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会で、未来の学校構想検討委員会を立ち上げて、検討を進めている。話のきっかけは、市内にある4中学校のうち1つの中学校で、単学級と言って、1学年に1クラスしかなく、来年も1クラスになる。2年後には全部で3クラスの中学校が出来てしまう。

<p>田原会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何が問題かと言うと、学級数が決まれば教師の数が決まる。中学校は9教科10科目勉強するが、それぞれの教科の先生が賄えない状態になる。そうなれば、本来持っていない教科の授業を免許外申請をして教えることになる。それは教員の質を保つのが難しいこともある。 ・それが10年後、20年後になれば、市内4つの中学校のうち3校が、その状態になるため、今、中学校を2校に集約する案を出している。北条中学校区は人口が多いのでそのまま残して、それ以外の3校を1つにして、市内2校の中学校という案。 ・あくまで素案だが、現状を分かっていたら、その方向に進む。ただ、その中学校をどこに置くかや、校区が広範囲になるため、通学バスを走らせる形にして、地域を守りながらも中学校の数を減らして行こうということが、今、案となっている。今年の9月には答申を出して、令和8年には実現させたいという形で進んでいる。 ・小学校については、11校すべて残す形にしているが、中学校の統廃合を進めることで、現在の中学校区の中にある小学校も一緒に統廃合して欲しいとか、残して欲しいとか、地域の声をしっかり聞きながら検討を進めていく、そういう現状にある。
<p>田原会長</p> <p>事務局</p> <p>田原会長</p> <p>事務局</p>	<p>(3) その他について (連絡事項など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局から何かあるか。 <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住マスの話、最後にご意見を色々いただいたことは、検討させていただく。検討した結果どうなるか、はっきりとは言えないが、私の頭の中では、ご指摘を受けたメッセージについて、これを重点施策の所、資料1-1「加西市住宅マスタープラン (原案)」P28で何か、たぶん1行ぐらいになると思うが、メッセージ的な文章を追加する。概要版にも左下の重点施策に1行追加する形でやってみたい。 ・これは私案なので、検討してどうなるかは分からないが、そういう形での対応を考えさせていただきたい。内容の変更があれば、都市計画審議会でご報告し、ご意見をいただく。もし、大きな影響のない変更が都市計画審議会が出たら、それを反映させる可能性はある。 <p>田原会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以上をもって、本日の審議を終了する。委員の皆さま方のご協力に感謝を申し上げます。それでは事務局に進行をお返すする。 <p>事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長時間にわたりご議論をいただきまして、ありがとうございます。繰り返しますが、本日の審議によって住宅マスタープランについては、基

本的な内容については確定という形でさせていただきたいと思えます。また、都市計画審議会の方で報告して、先ほど私が申し上げた点、その辺の話だけをさせていただけたらと思っています。

- 都市計画マスタープランについては、今日は貴重なご意見を様々いただきましたので、今回は骨子、叩き台という形で提案させていただいたが、細かい所の修正なりを今後させていただきたい。本来であれば、ワークショップなどの中で色々な意見を聞いていきますが、コロナ禍であり大勢を集めてどうこうは、なかなか難しい可能性がありますので、そういったやり方については、ちょっと今後、事務局の方で色々検討をさせていただき、次回、たぶん6月か7月ぐらいに、令和4年度の第1回策定委員会をさせていただきたいと思っていますので、また日程調整をさせていただこうと思えます。よろしくお願いたします。
- これもちまして、令和3年度第3回の加西市都市計画マスタープラン及び住宅マスタープラン策定検討委員会を閉会します。ありがとうございました。

以上